



●目次

- 9月定例会…………… 2P
- 決算特別委員会…………… 4P
- 補正予算…………… 7P
- 一般質問…………… 8P
- 研修報告…………… 12P
- インタビュー（前田欣也さん）… 14P

平成21年度**決算**

健全財政の確立を

9月定例会

実施した主な事業

集団茶園整備事業（継続）	2億5,978万円
新都市アクセス道路整備事業（継続）	9,799万円
高尾地区飲料水供給施設統合事業	5,270万円
老人福祉施設（やすらぎ荘）機能向上事業	1,492万円
学校ICT環境整備事業	1,438万円



完成したアクセス道路

平成22年第3回定例会は、9月7日に召集され28日に閉会した。補正予算5件、条例1件（改正）、一般議案2件、その他の議案1件、決算9件が提出され原案通り可決、認定した。

決算については決算特別委員会を設置し、慎重審査の上、いずれも認定した。一般質問には4人の議員が立ち、活発な議論を展開した。

基金と町債（借入）残高の推移

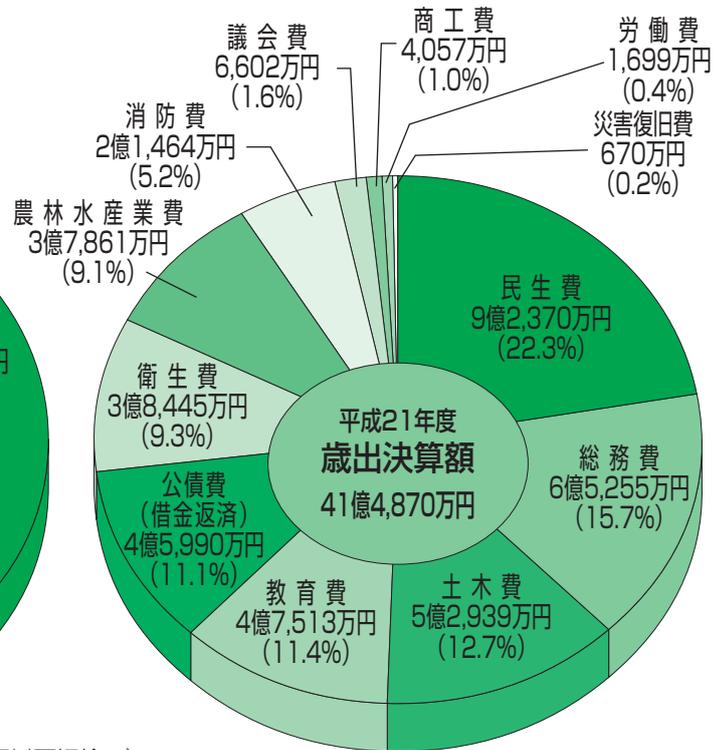
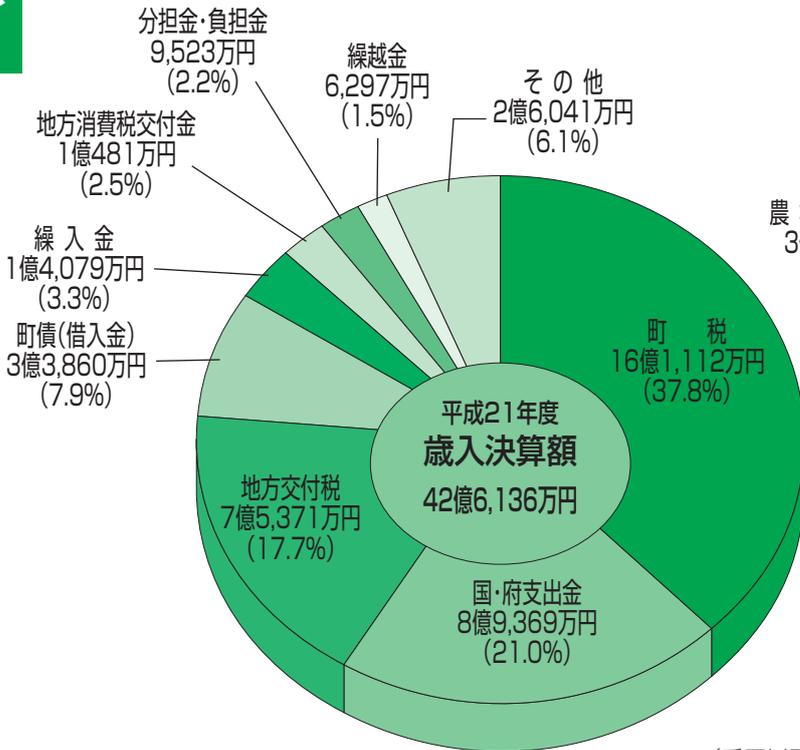
(千円以下切捨て)

	H 17 年度	H 18 年度	H 19 年度	H 20 年度	H21 年度
基金合計	27億2,271万円	26億2,824万円	24億9,908万円	23億7,290万円	23億 161万円
町債（借入）	44億3,384万円	43億1,635万円	41億7,387万円	40億9,287万円	40億4,054万円

町税収入 前年度比 1億5千万円の減

厳しい財政下 創意工夫で

(一般会計)



(千円以下切捨て)

各会計の決算一覧

(千円以下切捨て)

会計名	歳入	歳出	歳入歳出差引額	審議結果		
一般会計	42億6,136万円	41億4,870万円	1億1,265万円	認定 賛成9・反対2		
特別会計	国民健康保険	9億6,244万円	10億3,415万円	△7,170万円	認定 賛成9・反対2	
	老人保健	505万円	140万円	364万円	認定 賛成全員	
	後期高齢者医療	7,657万円	7,448万円	209万円	認定 賛成9・反対2	
	介護保険	保険事業勘定	6億 906万円	6億 650万円	256万円	認定 賛成9・反対2
		介護サービス事業勘定	238万円	188万円	50万円	
	奥山田地区簡易水道事業	4,840万円	4,781万円	58万円	認定 賛成全員	
	高尾地区飲料水供給事業	5,376万円	5,376万円	0万円	認定 賛成全員	
	公共下水道事業	5億1,623万円	5億1,196万円	426万円	認定 賛成全員	
水道事業会計	収益的	2億 68万円	2億 285万円	△217万円	認定 賛成全員	
	資本的	4,622万円	1億1,772万円	△7,150万円		

9月定例会

決算特別委員会の審査

決算特別委員会は、監査委員を除く11名で設置し、委員長に下岡周之氏、副委員長に原田周一氏を選出。活発な論議をし、慎重に審査した。

9月16日、決算特別委員会を開会し、一般会計、特別会計、水道事業会計決算について、個別審査を行い、翌17日、田原小学校ICT環境整備事業、集団茶園整備事業（西ノ山工区）、高尾地区飲料水供給施設統合事業、新都市アクス道路整備事業の現地調査を行った。



電子黒板を使って（田原小学校での現地調査）

その後、総括質疑に移り、それぞれの議案について認定し、閉会した。

決算審査意見書(要旨)

平成21年度一般会計、特別会計及び水道事業会計の決算並びに財政健全化判断比率及び資金不足比率について審査した結果、計数的に正確であり予算執行の成果等、良好であると認める。

本町の財政状況は、依然として厳しい状況にあるが、持続可能で健全な財政運営をめざし、平成22年度歳入歳出収支ゼロを目標に、節減・合理化に努めるとともに、国・府の財源を積極的に活用し、住民の安心・安全を守るための体制整備の推進、農林業など基幹産業の振興、都市基盤整備など積極的かつきめ細やかに実施された結果、実質収支で黒字決算を打たれた成果は良好である。

監査委員

総括質疑

【質問】

今後の財政見通し及び民主党政権による町への影響は。

【答弁】

今後の財政見通しについては、厳しい財政状況が続くが、健全化に向けて、行財政改革を押し進

め、歳入・歳出ゼロをめざす。

【質問】

国が実施した「事業仕分け」により、電子黒板等、一部の補助金が認められなかったなどの影響が出ている。

【質問】

町内中小商店への支援強化を。

【答弁】

町単独での制度を設け支援している。今後、商工会と十分連携し、支援していく。

【質問】

山手線の早期着工は。

【答弁】

具体的な見通しは立っていない。早期着工に向けた取り組みを進めたい。

【質問】

新市街地への企業誘致

の見通しは。

【答弁】

企業ニーズに、即対応できるように土地を用意し、府と連携して組みみたい。

【質問】

子育て支援医療費を中学校卒業まで拡充すべき。

【答弁】

国の動向を注視しながら、実施時期を見極めていきたい。



企業進出を待つ新市街地

一般会計

総務

【質問】

防災マップの活用について、どのように住民に

周知しているか。

【答弁】

防災訓練時、出前講座などで説明している。今

後、常時啓発していき

【質問】

福祉バス・コミュニティバスを、もっと細かく運行すべきでは。

【答弁】

よりよいバス利用を図り、バスの大きさもふまえて検討する。

福祉

【質問】

各種検診について、受診対象者数に対して、受診率が低い。

【答弁】

検診は、早期発見・早期治療につながるため、受診意識の高揚を図っていく。

【質問】

保育所のホールに設置された間仕切り部屋は、ホール使用の間、使えないのでは。

【答弁】

舞台を設置すると使えなくなるが、協力しながら運営している。

農林・土木・環境

【質問】

間伐枝打ち後、そのまま川の中にまで放置されている。川下には民家もあり、危険。現場の指導はどのようになっているか。

【答弁】

人家への安全対策も考慮し、指導していく。

【質問】

エコエネルギー研究会事業の研究成果について、どのようなバイオマスの仕組みを考えているのか。

【答弁】

宇治田原産木材の活用ストロブ燃料としてペレットなど環境作りを考えていきたい。

教育

【質問】

奥山田ふれあい広場旧奥山田小学校の管理はどのようにしているのか。

【答弁】

旧奥山田小学校プールの法面の草刈など実施している。

今後とも気をつけて対応していきたい。



奥山田ふれあい広場

国保会計

【質問】

特定健康診査・特定保健指導実施率向上策は。

【答弁】

実施率100%に近づけるよう努力していき

【質問】

総合文化センター、体育館の維持管理費の節約を。

【答弁】

さざんかホールについては、業者に委託しているが、内容により職員で対応している。

【質問】 全住民を巻き込んだ医療給付を減らす取り組みは。

【答弁】 地域巡回型の健康教育に取り組んでいる。



地域巡回型の健康教育（立川）

介護保険会計

【質問】 介護報酬の引き上げで介護従事者の処遇は改善されたのか。

【答弁】 処遇改善について、内容等を把握していきたい。



介護現場にて

水道事業会計

【質問】 訪問看護事業所の撤退に伴い、介護サービスは充分受けられているのか。

【答弁】 訪問介護の充実には、関係機関との十分な調整が必要。

【質問】 有水率が低下している。漏水対策は。

【答弁】 漏水工事は専門業者に委託している。

漏水の多い湯屋谷地区については、水の安定供給のため、緊急連絡管を設置していく。

禅定寺地区についても漏水対策に取り組んでいる。

一般会計決算に

反対 企業進出の見通しもないままの新市街地整備計画は無責任

(安本 修 議員)

雇用不安が広がり、住民の暮らしや営業が深刻な中、新市街地整備を最重要施策と位置付け、新都市アクセス道路（南北線）も整備したが、企業進出の見通しもない中で計画は無責任であり、いつ芽が出るかわからない事業に対する巨額の財政支出は住民の理解を得られない。

立派なエコ行動冊子を作っておきながら、配布もされず放置されていた。しかも、決算特別委員会で配布された「主要な施策の成果」の中で「配布し、環境活動の実践を促した」と報告された。これは、議会と行政の信頼関係を著しく損なうものであり、遺憾。

賛成 財調基金の減少に歯止め 未来に種をまく先見性を評価

(弦川 孝治 議員)

限られた財源を重点的かつ有効に使い、国や府の交付金、補助金を積極的に活用し、歳出削減に取り組み、財政調整基金の減少にも一定の歯止めがかかった。

平成21年度では、「子育て支援医療費支給事業」、「ハッピーマタニティ事業」、「福祉応援金支給事業」、「雇

用促進助成事業」、「高校生通学費補助金」、「就学援助・奨励事業費」の拡充など積極的に推進された。

また、未来に種をまく取り組みとして、新市街地の整備促進にも取り組まれており、その先見性は高く評価できる。

国民健康保険特別会計決算に

反対

保険税値上げが
住民生活を直撃

(今西 久美子 議員)

国保税の均等割りの4千円もの値上げは生活を直撃し、高くて払えないという住民の悲鳴が聞こえる。検診の充実、全住民対象の予防医療が重要。

賛成

健康意識の啓発で
歳出抑制

(上林 昌三 議員)

人間ドックへの補助や、健診・保健指導、健康教育など、健康意識の啓発に一層の力を入れ、歳出抑制に向けた事業運営が図られたものと評価する。

後期高齢者医療特別会計決算に

反対

公約どおり
ただちに廃止を

(今西 久美子 議員)

民主党は公約の制度の廃止を4年後に先送りし、国庫補助増額の約束もほごにした。新制度も公約に対する裏切り。国庫負担の還元こそが必要。

賛成

健全な運営めざした
事業運営

(青山 美義 議員)

将来にわたって国民皆保険を守り、高齢者が安心して医療を受け続けられるようにするため、現在まで制度も定着し、円滑な事務執行が図られてきた。

介護保険特別会計決算に

反対

施設の実態把握を

(今西 久美子 議員)

介護報酬の引き上げは3%では不十分。しかも、保険料値上げの一因となった。町として施設の実態を把握する努力をし、国にモノを言う姿勢が重要。

賛成

円滑なサービス提供、
健全な事業運営

(上林 昌三 議員)

地域包括支援センターの設置は、保険給付費の抑制につながり、必要な介護サービスを円滑に提供し、健全な事業運営推進など、評価できる。

平成22年度 補正した予算

◇保育時間（土曜日）延長

◇子宮頸がんワクチン接種へ助成

今回の補正は、京都府の「子ども未来基金補助金」や「緊急雇用創出事業補助金」などを活用したもので、主なものとして、土曜日の延長保育や、子宮頸がんワクチン接種への助成、保育所への太陽光発電施設の設置などが実現する。

国保会計では、制度改正にともなう電算システム開発費や人間ドック等委託費を計上したものの。

(千円以下切捨て)

会計予算名	補正額	補正後の総額	審議結果
一般会計	5,155万円	38億 837万円	可決 全員賛成
国保会計	546万円	10億 6,198万円	可決 全員賛成
老健会計	305万円	520万円	可決 全員賛成
介護保険会計	449万円	6億 4,160万円	可決 全員賛成
公共下水道会計	100万円	6億 9,013万円	可決 全員賛成

討論・補正予算

国民健康保険会計 健全化への取り組みは



垣内 秋弘
議員

【答】 医療費の抑制と健康なまちづくりに取り組む

【質問】

国民健康保険会計は、平成19年度から3年連続で大幅な赤字となり、累計で7100万円強の赤字になつている。赤字体質を改善することは喫緊の課題である。当面の施策は。

【答 弁 (戸籍・保険課長)】

赤字の主な要因は、昨年の秋から大流行した新型インフルエンザによる医療費の増など、歳出総額の6割を占める保険給付費が前年比3千3百万円、5.2%増加したためである。増え続ける医療費の抑制が不可避の課題であると認識している。

今後は国民健康保険事業

健全化計画において、歳出

抑制の手立てとして、被保険者の健康意識の啓発を柱に掲げ、地域巡回型の健康教室を展開し疾病予防に対する意識の高揚と、行動変容の機会創出を目的に、医療費分析に基づく健康課題に応じた講話や食事指導を行い、中・長期的に被保険者の健康づくりと医療費抑制につながるものと考えている。

国では、後期高齢者医療制度の廃止に伴い、平成25年度には75歳以上の8割を国保、2割を被用者保険に戻して再編する中間報告案が示されているとともに、府においても「あんしん医

療制度研究会」を組織し、国保の広域化も含めた新たな医療制度の枠組について検討もされており、その動

向に注目しつつ、町としても引き続き医療費の抑制と健康なまちづくりのために取り組む。

健康長寿日本一への取り組み施策は

【答】 健やかうじたわら21プランを
作成・実践する

【質問】

現在社会においては二一の多様化とも重なり生活習慣病が増加し健康を阻害している。本町の現状では健康長寿と言つには程遠いが、今後、どのようなコンセプトで健康社会実現に取り組むのか。

【答 弁 (健康長寿課長)】

生活習慣病となる要因には過食や偏食、運動不足、休養不足、過度の飲酒、喫煙等があげられ、食生活の改善が予防のポイントとなっている。現在策定中の「健やかうじたわら21プラン」において健康実態等を

基に、乳幼児期から高齢期まで5つのライフステージごとに目標や行動計画、また個人、地域・仲間、行政それぞれの役割を示し、健康増進を住民全体で推進していく。

【質問】

健康長寿は町長が掲げる基本政策であるが、何に力

【答 弁 (町長)】
健康づくりは住民の方がそれぞれ自覚を持っていたき、行政や社会全体が積極的に支援する環境作りが重要。本年度から保健師の増員を図り専門的な職員体制を強化して取り組む。



食生活の改善を指導 (健康づくりのつどい)



森田 木一
議員

役場庁舎に エレベーターの設置を

【答】 検討委員会を立ち上げる



役場庁舎

【質問】

東南海、南海地震の発生する可能性が高い。庁舎の耐震性、修理などは。

【答 弁 (総務課長)】

役場庁舎は建築後50年が経過し、耐震診断でも「補強が必要」との結果が出ている。耐震化対策等の必要性はあるが、現時点では具体化に至っていない。

【質問】

現庁舎では車椅子(障がい者)や高齢の方は議会傍聴もできない。エレベーターの設置も必要では。

【答 弁 (町長)】

エレベーターの設置も含め、バリアフリー対策を検討する必要がある。

【質問】

庁舎建設基金が8億4千万余りある。庁舎改築、新築移転を考えては。

【答 弁 (町長)】

役場庁舎の耐震化対策やバリアフリー設置、建替えなどの整備には、多額の財政投資が必要である。今年度中に、内部的に検討委員会を立ち上げ、対策についての検討に入る。

今後の道路整備は

【答】 南バイパスは今年度中に開通

【質問】

山手線南バイパスは、平成22年度に完成するのか。

【答 弁 (建設・環境課長)】

都市計画道路山手線の郷之口池の首から南粟所までの区間は、今年度中の全線開通に向け、京都府が事業を進めている。

【質問】

今後の山手線の見通しは。

【答 弁 (建設・環境課長)】

費田・立川地区の新市街地整備において、区域内となる600mの区間の事業着手を想定している。

厳しい町財政をどうするのか

【答】 企業誘致に努力する

【質問】

町財政が厳しくなってきたが、税収をどのよう

に向けた種」を大きく育て、町税をはじめとする財源の確保に取り組んでいくことが必要である。

【質問】

新市街地整備は、町財政の活性化と新たな雇用の確保が期待され、町長の実

践力により新たな企業等の誘致が必要と考えるかどうか。

【答 弁 (町長)】

新市街地整備は町の最重要施策であり、新たな雇用機会を創出し、財政基盤を確立するなど、町が生き延びていく上で欠かせない重要なもの。新たな企業誘致を進める。

【質問】

町長に就任してから10年目を迎え、3期目の任期も残り2年半となっているが、安定した宇治田原町の財政再建に向けた取り組みは。

【答 弁 (町長)】

平成22年度の当初予算において歳入歳出収支ゼロを達成し、本年度決算での歳入歳出収支ゼロの達成に向けて、私が先頭に立って諸施策に取り組んでいきたい。

サルを減らす本気の対策を

【答】 協力者を募っていききたい

【質 問】

有害鳥獣対策研修会で住民から寄せられた意見は。

【答 弁 (産業振興課長)】

7月27日に奥山田会館で研修会を実施。(株)野生動物保護管理事務所先生による講演の後、質問が殺到し、「今さら対策より数を減らしてほしい」との意見が多数出された。

【質 問】

総務産業常任委員会の研修先、和歌山県日高川町は、人口1万1千人で猟友会員

が194名もおられ、捕獲

数も多い。おり・ワナの免許取得者を増やし、本格的な捕獲駆除を。役場やJA

の職員が免許を取得し、地域の方と一緒に活動できないものか。

【答 弁 (産業振興課長)】

平成20年度から、町独自に狩猟免許取得助成制度を

設け、協力者を募っている。

町、JAの職員の免許取得は、希望者を募っていき

たが、異動や町外からの通勤者等が多いことから、難しい。

【質 問】

日高川町では、駆除報酬費を、1頭あたり1万5

千円支払っている。

宇治田原町でも、検討を。

【答 弁 (産業振興課長)】
猟友会に、駆除奨励金も含んで、出勤日数に見合う報酬金を支払っている。



今西久美子 議員

孤独死を出さない対策を

【答】 一層の充実をはかる

【質 問】

ひとり暮らしで、だれにもみとられずに亡くなる孤独死が全国で年間約3万人とも言われている。

町内にひとり暮らしの高齢者は何人おられ、孤独死を出さない見守りについて、どのような取り組みをしているのか。



社協が実施している安心・安全点検

ワクチン接種へ助成を

【答】 子宮頸がんワクチンは全額補助

【質 問】

子宮頸がんワクチン、ヒブワクチンなど、接種費用への助成を。

【答 弁 (健康長寿課長)】

子宮頸がんの予防には、10代前半のワクチン接種が望ましく、今年度から町内

在住の中3の女子を対象に接種費用全額を助成する。

ヒブワクチンの接種は、有効性を考えれば定期接種化が望まれる。国・府に要

望するとともに、今後の動向を注視していきたい。

【答 弁 (健康長寿課長)】

本町で、70歳以上のひとり暮らしの方は117名。

社会福祉士や保健師が健

康相談等を行う「おたっしや訪問」、安否確認を兼ね食事を提供する「食の自立支援」、緊急通報装置貸

与」等の事業を行い、生活の安全を見守っている。

【質 問】

社会福祉協議会や民間事業所、地域と連携し、宇治田原らしいネットワークづくりを。

【答 弁 (健康長寿課長)】

孤独死を出さない、高齢者が安心した生活が送れるよう、行政、地域、関係機関の連携を密にした取り組みを、一層充実させる。



奥山田会館での研修会



原田周一
議員

小中一貫校の取り組みは

【答】 将来に向け、研究を継続していく



小・中学校の交流

【質問】

小中連携は、現状とどう異なるのか。教育長のめざす本町の分離型一貫校の姿は。

【答弁(教育長)】

①9年間を見据え系統的・継続的な学習指導を行う。
②児童生徒間の交流活動や地域との交流により豊かな社会性を育てる。
③地域・保護者との連携を深め、その強化を図るなど、多くの狙いをもって進めていく計画で、教育課程面・学力充実面・生徒指導面でのような効果が得られるのか研究を進めたい。

集中豪雨時の対応は

【答】 側溝等の部分改修を行っている

【質問】

本町では、全域が傾斜地で構成されており、一旦、集中豪雨が発生すると、その坂道が川になることが想像できる。現状の排水溝での処理能力は、どれ位の雨量を想定しているのか。

【答弁(建設・環境課長)】

近年開発された区域については、開発規模に応じて河川改修や調整池を設置し対処している。古くからの居住区については、降雨量の予測に基づく対策ができ

【質問】

過去に大きな災害を経験した経過があり、安心・安全のため、積極的な対応が望まれる。具体的な対応は。

【答弁(建設・環境課長)】

道路側溝が狭小であったり、流れが悪い所については、側溝本体の改修を実施、側溝蓋のコンクリートからグレーチングへ変更するなど、道路の河川化を防ぐよう、対策が必要と判断される箇所から順次行っている。大雨に関する注意報が発令された際は、地域防災計画に基づいた警戒体制を敷く中で、職員の待機なども実施している。

【質問】
本町の施設分離型の小中一貫校のあり方について、教育懇談会等の中で、幅広く意見を聞いていくのとこのだが、進捗状況は。

【答弁(教育次長)】

「小中連携・一貫教育推進事業」として、研究に着手した。小・中学校校長会を中心に全教職員が共通の認識の下、推進委員会を設置し、研修、研究を行う。

【質問】

「小中連携・一貫教育の考え方と進め方」について、町内小・中学校の全教員対象の研修会を実施した。

【答弁(教育次長)】

施設分離型は、既存の小学校と中学校が学校施設や組織・運営を維持し、小中が連携して推進していく。



急な坂道

総務産業常任 委員会研修

○研修日
平成22年7月22日(木)
～23日(金)

有害鳥獣被害対策 食肉加工施設を視察

和歌山県日高川町

日高川町は、平成17年

5月1日に、川辺町、中津村、美山村が合併して誕生した。人口1万1千人。総面積は約331平方kmで宇治田原町の約5.7倍もの広大な面積を有する。その

うち森林が87.5%を占めている。

猟友会員が194人
年間2千万円の予算

電柵、トタン、ネットなどの被害防止資材への補



シカを解体するハンター

解体、販売を行うこととした。エゾシカ料理まつりの開催、ジビエ料理レシピ集の作成などで、販売促進、消費拡大をめざす。

今後は販路の拡大が課題だが、産品販売所での販売や観光施設で「ジビエ料理」を提供する他、また、県内のホテルやレストランへの供給も期待されている。

本町での課題

年間捕獲数はサル130頭、イノシシ363頭、シカ469頭の実績がある。平成22年度の有害鳥獣対策予算は、約2千万円。

ジビエ工房

紀州の取り組み

本年5月29日、有害鳥獣食肉処理加工施設「ジビエ工房紀州」を開所。工房は、解体専門員を配置せず、各ハンターグループが施設使用料を支払って

林業振興

行政と民間一体の取り組み

和歌山県



材木会社を視察

林業振興については、まず、和歌山県西牟婁振興局において、和歌山県の振興策について説明を受けた後、民間の材木会社(旬山長商店を訪れ、研修をおこなった。

(旬山長商店は、約5千haの自社所有林を持ち、スギ、ヒノキの育林から製材、建築に至るまで「山長ブランド紀州材」として一貫生産を行っている。

和歌山県では、林業・木材産業の生産性の向上と健全な森林づくりをめざし、①低コスト林業の推進

和歌山県紀の国森づくり基金事業等、行政とも一体となった振興策を活用し、林業の振興に大きく寄与されてきた。

②紀州材の利用・販路拡大
③健全な森林づくりの推進
の3つの施策を3本柱に取り組みをすすめている。

豊富な森林資源を有効に活用するためにも、行政と民間の一体となった工夫・努力が必要である。

ジビエとは、フランス語で「狩猟によって食材として捕獲された野生の鳥獣」のこと。

文教厚生常任 委員会研修

○研修日
平成22年8月26日(木)
～27日(金)

障がい者福祉事業

ケアホームを視察

「麦の郷」(和歌山市)

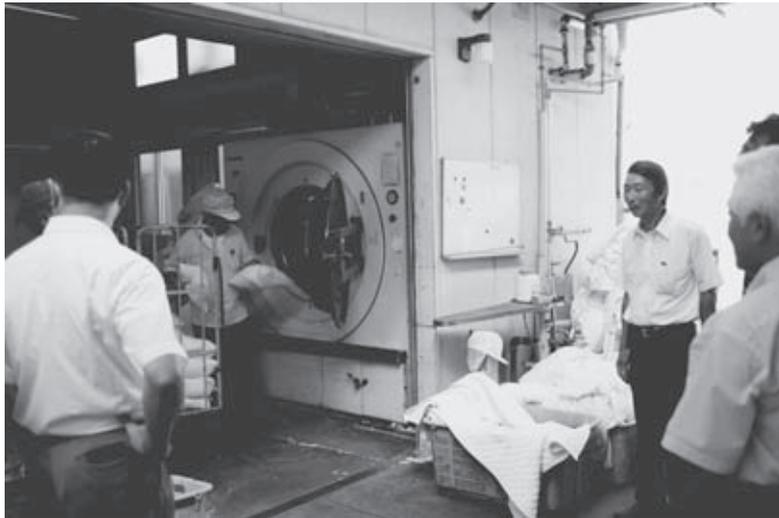
一麦会「麦の郷」は1977年に6畳一間の1室から出発した。障がい者・家族との出会いの中「ほっとけやん」(放っておけない)を合言葉に、市民によって立ち上げられ、今では行政・民間

団体との協働で事業をすすめている。

当日は、「麦の郷」障がい者地域リハビリテーション研究所の所長と「麦の郷」

居住福祉事務所の管理者の方から非常に熱い思いをこめた説明を受け、実際にリネンをクリーニングしている現場(写真上)やパンを作っている現場、活動や歴史を説明したビデオ等色々と見せていただいた。

障がいを抱えていても、障がいの程度により、自分の得意な分野を選び、成人すれば一人の社会人として、経済的自立(生活保護の支援を返上、納税者として独り立ち)し、地域で独立した生活を送ることをめざして実践している。また、「麦の郷」は支えることができる施設としての役割を果たすという目標を持って活動している。



クリーニング作業の説明を受ける委員

主な事業は

(1) 障がい乳児・幼児支援

(2) 労働支援

(3) 地域生活支援

(4) 重度重複障がい者支援

援

(5) 高齢者障がい者支援

であり、総勢170人のスタッフ(正職50名)で、子どもから高齢者まで、約1500人が通所、または入所している。



紀美野町役場での研修

食育推進

健康づくりを学ぶ

和歌山県紀美野町

健康づくりに関しては、全戸に配布されている「きみのいきいき行動計画」を基に実施され、すべての方が生涯を通じて、いきいきと充実した生活が営めるように、地域・教育・産業などさまざまな方々と手を組み、健康づくりや、生きがいづくりを推進している。特に食育については、町内の約550世帯に日々、配食が行われていて、各担当の保健師間で、ノートによる情報交換し、つながりをもつようにされている。

紀美野町は、和歌山県の北部にあり、西は海南市と接し、人口約1万2千人であり、21地区に区分されている。町の多くは林野に囲まれ、役場の位置から東部に27kmと広大な面積である。

当日は、健康づくり(食育推進)について説明を受けた。



小学校運動会

消防団総合訓練



町民運動会



直撃インタビュー



宇治田原町商工会青年部

前田 欣也 さん

前田欣也さんは、お母さんの実家(奥山田)の家業を継がれ、建設関係の仕事をされています。京都府商工会青年部主催大会の南部ブロックの予選で優秀賞を獲得し、本選でも優秀な成績をおさめられました。

Q 商工会青年部に入部されて何年ですか。

A 14年になります。

Q 仕事の、おもしろさ、大変さは。

A 今のご時勢、建設関係は大変ですが、この仕事は自分には一番合っていると思います。仕事が終わって、ありがとうございます。

Q 宇治田原への思いは。

A 僕の故郷は和束町ですが、宇治田原に来てもう15年。人生の半分を過ごしています。親戚も多し、「よそに来た」という感じはありません。

Q 青年部活動での苦勞は。

A 今年、勧誘に取り組み部員が増えましたが、仕事と青年部活動の両立は大変で、イベント等での人手不足が悩みです。

Q 今後、やっていきたい活動は。

A 宇治田原町が出てくる司馬遼太郎の小説「箱根の坂」をもっと住民に知らせる活動や、子どもを対象にしたイベント等やっていきたいです。

Q 主張大会で発表された感想は。

A 普段、人前で話す機会もなく、いい経験をさせてもらったと思います。

Q 今後どんな青年部をめざしますか。

A 青年部は年齢が幅広いのですが、輪をひろげ縦のつながりを大切にした活動をしていきたいです。

後記

今年の夏は猛暑日が続き、皆さま方には健康管理等で大変だったと思います。

国では、尖閣諸島で中国漁船と海上保安庁の巡視船との衝突事件が発生し、日本政府の毅然とした対応と正常な外交関係が望まれます。

9月定例会では、決算関係、条例関係、補正予算関係等、18議案が提出され、活発な議論を展開し、審議しました。

わかりやすく読みやすい議会だよりになるように広報編集員全員で取り組んでおります。ご感想・ご意見等お寄せください。

広報編集委員 田中